

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福祉法人萱垣会		
事業所名	中津川市グループホームまごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835番地204号		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果市町村受理日	平成25年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2171500040-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「寄り添い、見守り、共に暮らす」を事業所の理念に掲げ、ご家族と職員、地域との連帯に力を入れています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は毎年、運営目標と行動指針を掲げ、利用者が生きる喜びを感じ、安心して穏やかに暮らせるように支援をしている。職員は、限りある人生の応援団として役割を自覚し、そのらしい生き方を支えている。日常生活では、一人ひとりの思いや意向を尊重し、寄り添い、質の高いサービスを提供している。管理者・職員は、強い信頼関係を基に一体感を発揮し、利用者が安心できる暮らしを支えながら、生きる価値の尊さを高めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はもとより、まごころ独自の理念を設け職員もそれを受けとめ利用者本位の生活を支援している。	理念は、住みなれた地域の中で「寄り添い見守り・ともに生きる」と掲げている。運営方針である「笑顔と安心、ゆとりのまごころ」を大切に、職員間で共有しながら、利用者本位の生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・文化祭に参加したり、外出時の地域ボランティアの協力や地域との防災訓練等を通じつながりを感じている。	事業所の行事や草刈、野菜畑の管理など、ボランティアの協力は、日常的である。また、地域の防災訓練での協働、文化祭には、利用者の作品を出展するなど、地域と盛んに交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの方々に行事等の時に協力をして頂きながら、認知症の方と関わり中で随時説明をし、ご理解・ご支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、消防署員をはじめ、ご家族や地域関係者の方々に参加していただき、事業報告、実施報告をしている。又、ご意見をいただきながら、講演会や施設見学、レクリエーションの体験などを行っている。	運営推進会議は、隔月に開催している。運営の現状を報告して、意見交換しながら、サービスの向上につなげている。また、会議は、ヨガ教室や食事を兼ねて開催し、積極的にサービスの改善や運営上の課題を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者が運営推進委員であると共に、市から依頼されている介護相談員も受け入れ、意見を頂くなど連携に取り組んでいる。	市の介護相談員や、地区の第三者委員を受け入れ、サービスの評価や指導を受けている。市とは、建物管理や改修について、常に連携を取っている。困難事例は、その都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての研修会や勉強会への参加をし職員会等にて職員全体にその意識を持ってもらう様に努めている。体調等で拘束の必要性がある時には、改善に向けた話し合いや解除にむけた検討に努めている。	法人内に、身体拘束ゼロ委員会があり、学習会や研修会で、全職員が学んでいる。不適切な言葉づかいや心の拘束、行動制限をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会や新聞記事等を使ったり、積極的に研修や勉強会に参加をし、事業所内での委員会を設け、虐待防止に努めている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修に積極的に参加しており、以前運営推進会議で勉強会を開催。家族様との意見交換等も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は十分に時間をかけ説明し、ご家族の思い不安や質問を伺いながら、ご理解を得る努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、年1回のサービス評価事業を行うと共に、月1回の茶話会を開催し利用者様の意見、要望を運営に反映させている。	運営推進会議や家族が集まる機会を多く設け、利用者や家族の意見・要望を引き出している。また、満足度調査を、年に1回行い、意見や要望を受け入れ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に意見を出せるよう環境づくりがされており、ミーティング、職員会で提案事項は全職員で検討している。	職員会議で、意見や提案を話し合っている。議題は事前に設定し、内容を充実させている。おむつ外し、負担のない移乗の方法・適切な水分補給など、多様な意見を検討し、サービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は主任、職員の異動もあり、各自が向上心を持てるように配慮している。年一回は職員も面談の機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、各種研修への参加に職員を促し、勉強への参加を勧めレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会やグループホーム協議会に参加し、研修の開催や情報交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでにご本人はもとよりご家族様の話を伺う機会を十分に設けており、ご本人の気持ちを受け取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、話しをする機会を設け、不安な事、要望などご家族様の気持ちを受け止め、サービス提供に組み入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時には、ご本人、ご家族様に充分話しを伺い、他のサービスの内容等の説明もさせて頂きながら対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「寄り添い、見守り、共に暮らす」を事業所の理念に掲げ利用者様と関わりを持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会、通院時に利用者様の情報を細かく伝えており、家族様の気持ちを聞き、共に支え合っているという関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方、馴染みの方々の面会を促したり、交流ができるように家族様にもお願いをしている。	近隣の人やボランティアをしていた頃の友人等、馴染みの人の訪問が多い。訪問者には、ゆっくりと会話を楽しむ場を提供している。馴染みの場所へは、家族やボランティアと協力して、出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居間や食堂にて仲良く交流できるように職員が話題の提供をしたり、家事に関わる事ができるよう配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方や、その他の理由で契約が終了したご本人様、ご家族様はとても大切な存在だと感じており、相談など気楽にできるような関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の茶話会をはじめ、利用者様の意見や要望を聞きながら支援をしている。聞き取りの困難な方には家族様に伺いながら支援にあたっている。	日常生活の中で、表情・行動・言葉等から思いや意向を把握している。職員は、朝夕の申し送りやミーティングで、利用者の思いを共有し、生き生きとした、その人らしい暮らしができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、それまでの生活歴の話を聞いたり、日常の会話の中でその方の思いを聞きながら、馴染みのある事を取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、その方の生活状況、心身状態の意見交換をし、検討事項がある時には職員会や担当者会にて、その後の支援に繋げるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施しており、家族様の面会時には、この間の様子を伝えながら、これまでの生活歴をふまえ介護計画をたてるよう努めている。	個別サービス実施表に基づいて、毎日、振り返りを行っている。利用者・家族の意向や要望、担当職員の気付きを取り入れ、介護計画を立てている。さらに、評価やモニタリングを定期的に行い、より良い生活ができるように見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「まごころサービス計画、実施表」にて、毎日の様子を記入し、情報を共有しながら介護計画を見直す際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、担当者会を通じて必要な支援を考え、音楽を聞いたり、福祉用具を使用したり、本人ご家族の気持ちを大切にしている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や民生委員の慰問を受け入れ、多方面でのボランティアの協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を継続し、症状の進行状況の変化にも家族様と相談しながら専門医への受診にも対応している。	家族・本人の希望で、かかりつけ医を決めている。法人の協力医に変更のケースもある。精神科医は、月に1回、協力医は、月に2回の往診がある。定期受診は、家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師に急変時等の対応をして貰っており、日常の様子もその都度伝え、状態の変化に臨機応変に対応できる様、協力を得られるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より職員が病院に面会に行き、入院中の様子を聞き取り、入院後の対応に生かしたり、主治医や関係者との話し合いにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、ご利用者さんや家族様の意向を伺い、医療機関等の協力体制、状況の確認等の確認をしながら出来る限りの支援ができるよう取り組んでいる。今年には看護師と終末期のあり方の学習会を開いた。	早期から、終末期に向けて話し合いを行い、家族や本人の意思を尊重している。医療機関と協力体制をとり、家族の協力を得ながら、終末期に対応している。見取りの事例があり、職員教育も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回から2回の救急法の講習会に参加したり、定期的に訓練を行い体で覚えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々との合同訓練や連絡網を設け災害に備えている。又、事業所内での委員会を中心に訓練等を行い、緊急時に備えている。	地域とは、防災協定を結び、合同の避難訓練や、緊急連絡網でつながっている。事業所内に、災害委員会があり、定期の自主訓練で応急手当、防災知識の学習、災害時の役割分担等を定めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時はもとより、日常生活での場面においてプライバシーの配慮や誇りを傷つけないよう言葉かけに気を付け、職員間で話し合い配慮している。	羞恥心や尊厳を損なう言葉かけをしないように、徹底している。常に良きパートナーとして、受容の心で、対応をしている。プライバシーの権利は、諸規定を遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、季節や食べ物、衣類の話など個人の希望を聞く場面作りを日々行っている。月に1度、茶話会を開き、希望を聞き自己決定出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を心掛け、ご本人の気持ちをゆっくり聞けるよ、寄り添う支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける際の声掛け。自分らしさへの配慮。化粧をすると喜ばれるので個人の化粧品を用意し、いつでもできる様にしている。髪をといたり、カットの方に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好みを伺ったり、調理方法、味見などをして頂きながら家事に参加して頂けるようにしている。又、体調や気分など様子を見ながら食器の後片付けやテーブル拭きにて役割のやりがいを感じて頂けるよう配慮している。	食材の買出しは、職員と一緒に出かけ、手伝いをしながら、食事づくりの役割を担っている。また、自家菜園で採れた、季節の野菜を調理している。利用者好みの献立や味付けを話題にしながら、楽しい食事時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みや状態に応じた支援を行い、本人の希望により食べる量を調整したりしている。特に水分量を確保できるよう気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	委員会を設け、口腔ケアの習慣に努めている。個人の力に応じてケアお行っている。義歯の洗浄等も定期的に行っている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「トイレでの排泄」を職員間にて徹底し、時間をかけ排泄を促すようにしている。排泄パターンの把握にも情報の共有をしながら努めている。	排泄パターンを把握して、トイレへ誘導している。学習会でオムツの種類や特徴を取り上げ、個々に合った効果的な使用を行っている。さらに、使用量を軽減できないか検討を行っている。	個別に細かな排泄を支援して、失禁の予防に努め、おむつ外しやパッド使用数の軽減に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムをチェックし、水分や食物繊維の摂取に心がけ、必要時は医師の意見を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回から3回、午後の時間帯に入浴して頂いている。利用者様からの入浴希望があれば可能な限り入浴をして頂けるようにしている。	重度の人は、複数の職員で対応し、湯船で快感が得られるように支援をしている。拒否の人は、無理強いせず、入浴日や時間を変更している。菖蒲や柚子を入れ、季節感を味わっている。	限られた空間の中で、利用者の安全確保や職員の腰痛予防など、さらなる取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の思いや生活パターンを大切に、眠れないときは温かい飲み物等を提供したり話をしたりしながら気持ち良く眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量、副作用の説明書を職員が把握できるよう、いつでも見れるようにしており、薬の変更などがあった場合には全職員が周知するよう伝達をしたり、様子の記録なども行う様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	屋外の好きな方には畑に出掛けたり、買い物等に出掛け、外の活動が多く持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のボランティアの協力で花火大会や地域の行事等、外出の取り組みも行っている。日常の会話の中や茶話会等にて希望の聞き取りにも心掛けている。	日常的にホーム周辺を散策したり、ベランダで外気浴を楽しんでいる。隣接の特別養護老人ホームへ気楽に出かけている。行きたい場所へは、ボランティアの協力を得ながら、ドライブやイチゴ狩り、花見等へ、外出できるように支援をしている。	

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等の要望がある時には、ご本人の力量に合わせ、財布を持って頂き、支払いが自分でできる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より電話があった際には、ご本人につながる様にしている。話ができない方は表情などを家族様に伝え、手紙などは職員が代筆をし、返事を出すように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの設備がないので、居室や共同空間の温度などには細心の注意をはらっている。季節の花、工作を飾る事で季節感を取り入れ掃除をこまめにする事で不快感を与えないように努めている。臭気にも気を配っている。	共用の間には、大きな掘りごたつがあり、団欒の場になっている。大きな窓越しに、季節を感じる風景が見えてる。玄関に木製の長椅子や下駄箱の上の仏像に癒されている。貼り絵やちぎり絵で描かれた作品を飾り、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂にての皆さんの様子を伺いながら、気分よく過ごせるよう座る場所等の気配りをしている。居間で皆さんと過ごしたり、居室にて過ごしたり気楽に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や小物など、自分の好みものや馴染みの物を使って頂ける旨、話をさせて頂いている。又、家族様や知り合いの方等の写真などを掲示し癒される空間作りに配慮している。	馴染みの時計や絵手紙、孫や家族の写真を持ち込み見やすく配置している。利用者がゆったりと落ち着けるように、家族と協力しながら、居心地のよい居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、居室内の安全に配慮し、本人の活動にベットの高さや配置の工夫、家具の角のクッション貼り付けなど環境整備に努めている。		